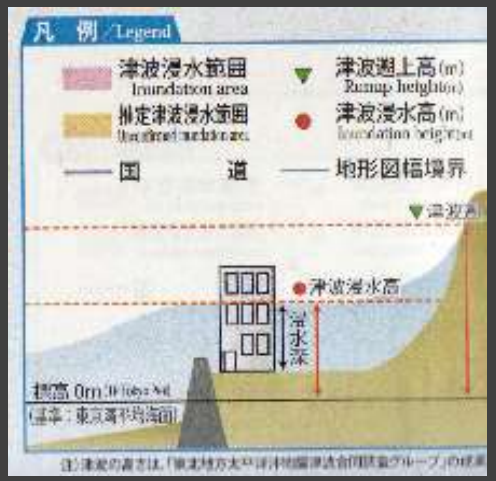
東日本大震災の津波に襲われた荒浜地区

津波で孤立した仙台市若林区の荒浜地区では荒浜小学校が唯一の避難場所で，周囲にはここ以外の避難場所は見当たらない．以前から繰り返し避難訓練を行ってきたためか，２階まで浸水しながらも避難者の受入れ態勢は学校長の指揮のもと円滑に行われ，生徒や教師，地域住民など320人が避難し救助された．

東日本大震災 仙台市震災記録誌～発災から１年間の活動記録～，仙台市，平成25年3月より引用

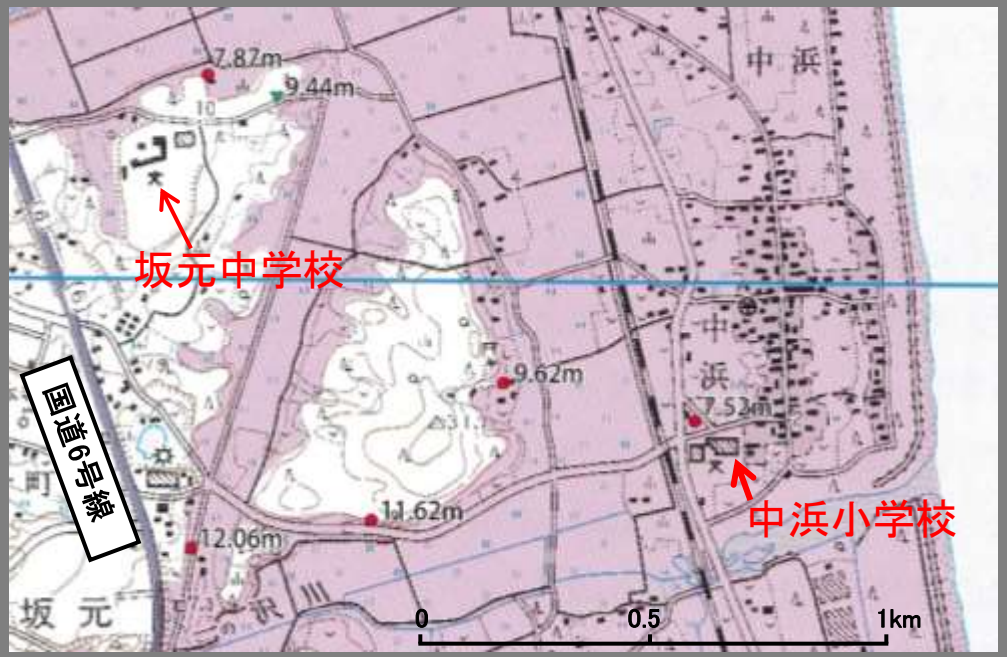


[追加のコメント]
荒浜小学校以外の避難場所は仙台東部道路を超えて，さらに内陸方向へ4～5kmも歩く必要があった．車での避難は途中で大渋滞を引き起こした．

原口強・岩松暉：東日本大震災津波詳細地図 上巻，古今書院，2011.10. より

亘理郡山元町坂元地区の中浜小学校

この時刻まで電気時計は動いていた



本来の避難場所は約 2km 遠方の坂元中学校だが，20分を要することから校長先生は学校に留まることを選択された．あと数m津波が高かったらと考えると，喜んでばかりはいられない．

緊急避難場所となった屋上の屋根裏部屋

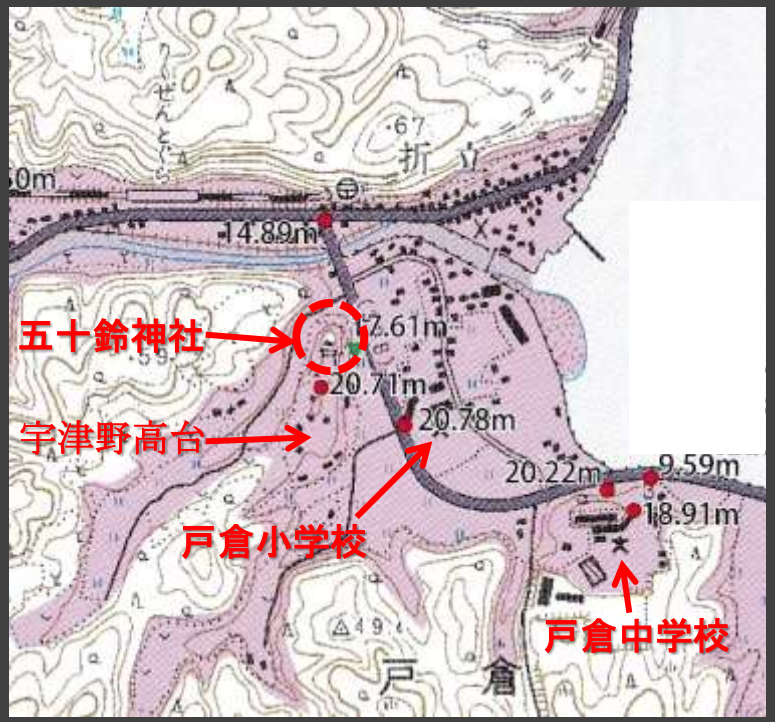
原図は『原口・岩松：東日本大震災津波詳細地図(上巻) 古今書院 2011』による

撮影：2013. 9. 28.

南三陸町戸倉地区

南三陸町立戸倉小学校では津波からの模範的な避難行動が取れたとのことで，ぜひ状況を確認したいと思い現地を訪ねてみた．戸倉小学校はすでに解体されてなくなっていたが，やはり現地に来てみないと理解できないことが沢山あって，大いに勉強させられた．

［撮影：2013. 7. 20.］



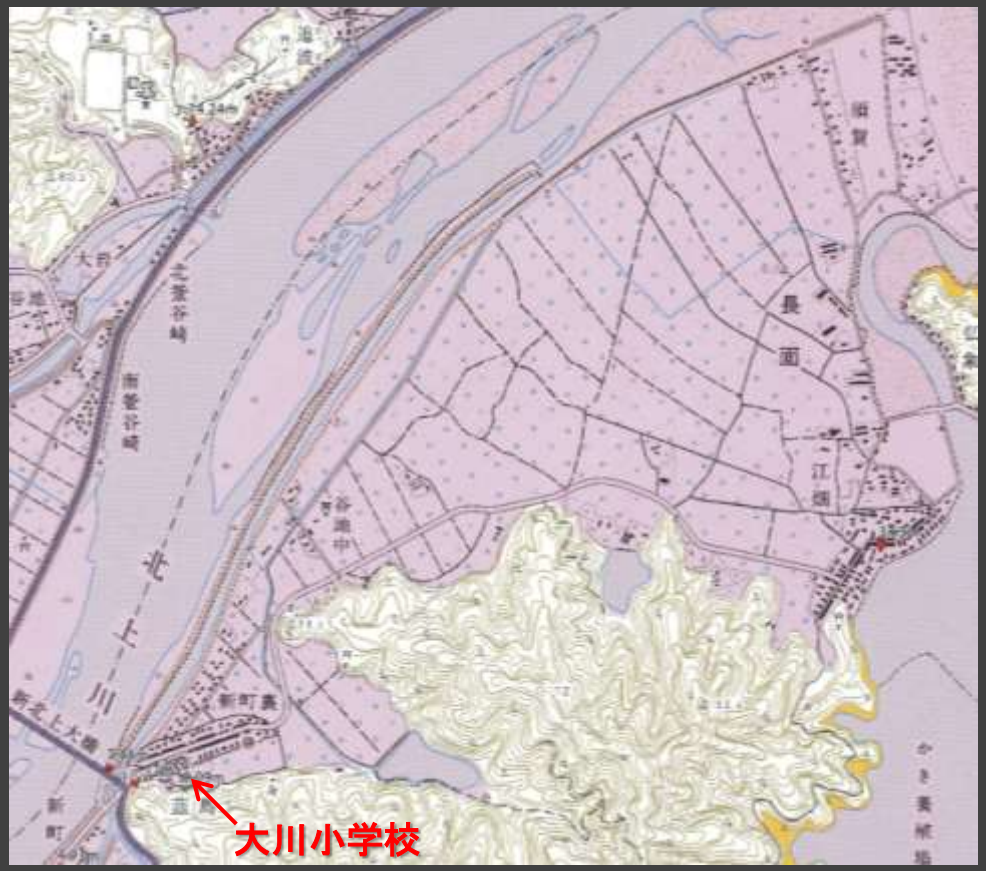
後日になってから，ちょっと考えられさせられたのは，右の地図上で五十鈴神社が津波に囲まれて孤立状態にあったことである．戸倉小学校は津波で完全に水没することになったので，屋外避難が正解であったことは間違いない．当初の目的地は宇津野高台であったが，そこも危なくなったので五十鈴神社に避難せざるを得なかったとのことで，そうなると五十鈴神社は最後の砦でしかなかったことになる．

原口強・岩松暉著：東日本大震災津波詳細地図 上巻（古今書院）より引用

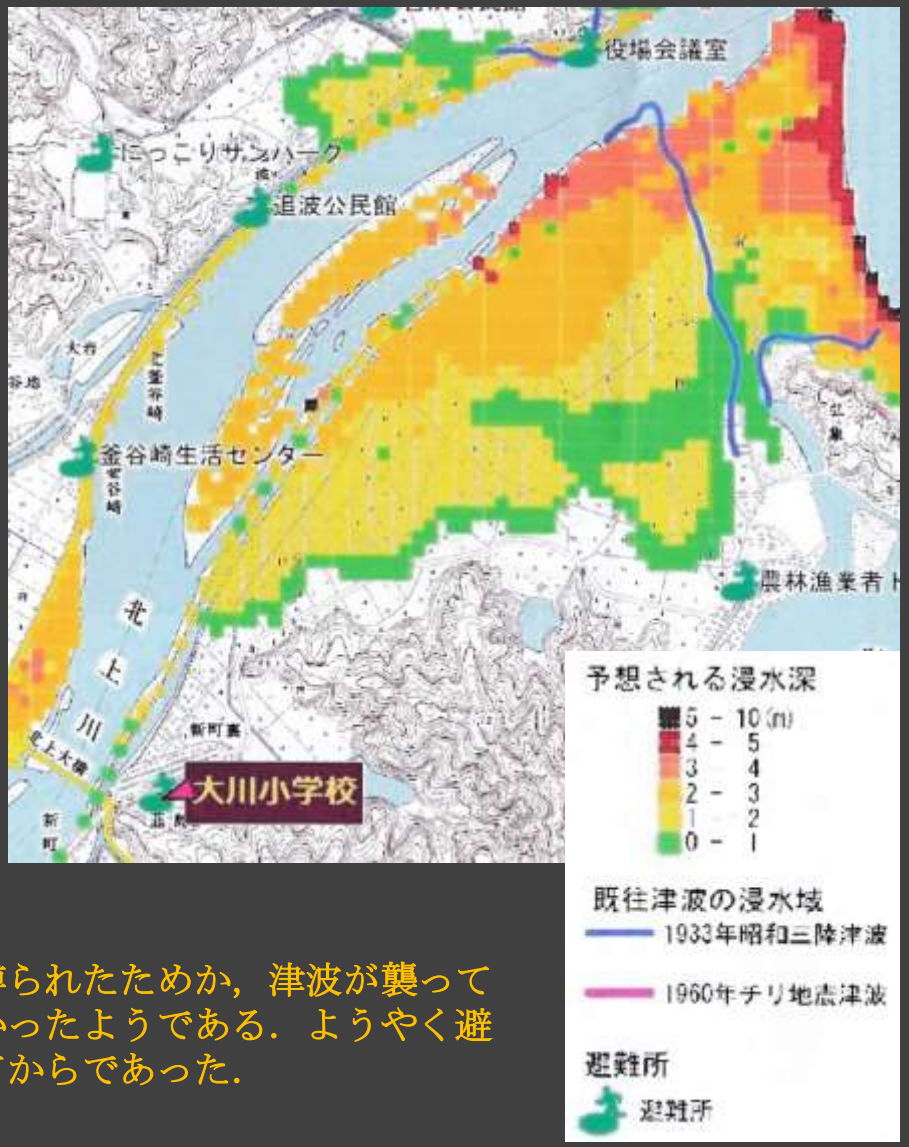
石巻市立大川小学校

津波被災前の大川小学校
［佐藤敏郎氏提供］

石巻市大川小学校付近の津波浸水分布と宮城県による予測結果



原口強・岩松暉著：東日本大震災津波詳細地図上巻（古今書院）



宮城県の津波予想図（右図）あるいは過去の津波経験に縛られたためか，津波が襲ってくるかも知れないとの考えは，最後の段階まで持てなかったようである．ようやく避難行動が取られたのは，津波がすぐ近くまでやって来てからであった．

宮城県危機対策課が宮城県沖地震（連動型）を想定して策定した津波浸水予想図［平成16年3月作成］

東日本大震災の津波災害から学んだこと

津波警報の信頼性や的確な伝達方法について，気象庁，国や地方自治体の防災担当部署，放送機関，地域住民組織および個人にいたるまで，全ての立場からもっと連携を確実なものにする必要がある．

気象庁はしばしば津波の大きさを過大評価(安全側の評価を)することがある．何度も過大評価が続くと人々は気象庁の津波情報を信用しなくなり，積極的な避難行動を取らなくなるという悪循環が発生することも考えられる．

仙台海岸平野において各地の学校は緊急避難場所として重要な役割を果たした．この場合，どうすれば緊急避難できるのか，できる限りの事前訓練が必要である．また，緊急避難場所としての学校を，約１週間程度，混乱なく運営してゆくためにも，事前準備が必要である．

学校が緊急避難場所となった場合，必然的に学校の教職員は児童・生徒のほか地域の避難者を誘導したり，世話をする役割を担うことになる．

三陸リアス海岸の場合には，学校への避難が安全とは限らない．この場合近くの高台に向かって速やかな避難行動が必要となる．避難路は事前に準備しておき，なおかつ何度も実地訓練を重ねておく必要がある．

防災の専門家でもない学校の教職員に，避難すべきかどうかという重要な判断を期待することは酷かも知れない．ぜひとも専門家になって頂く必要がある．